

自然観察会報告  
『夏の星めぐり』天体観測会  
渡邊 忍



観測の様子

8月9日（火）、ふじのくに地球環境史ミュージアム屋上で、「夏の星めぐり」天体観測会を実施しました。このところ、午後になると北から雲が出るので心配していたのですが、この日も午後から雲が出ましたが東に流れており、薄明時、雲量4でしたが雲は北天のみで、南天は晴れていました。

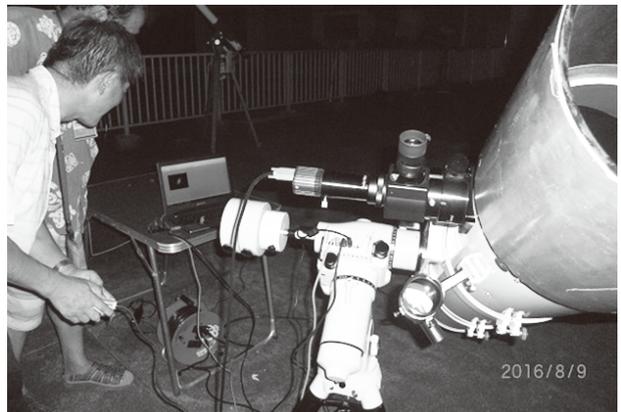
参加人員は、スタッフを含めて10数人で、人員を絞ったのは、対象をじっくり見てもらうとともに、月齢7（伝統的七夕）の月を望遠鏡を通しての拡大撮影をスマホやデジカメで行うためでした。

応援に焼津の塩澤氏（毎日太陽の観測をしている人で「ロンキーのブログ」で発表しています）と大石氏に依頼し、使用機材は、塩澤氏の口径50cm・焦点距離2250mmの大型ドブソニアン（70倍、94倍）、大石氏の25cm・1200mm反射望遠鏡（合成焦点距離6000mm）にCCDカメラを付け土星などをパソコンのディスプレイで表示（約800倍）、口径15cm大型双眼鏡（25倍）、20cm・2000mmのシュミットカセグレン（100倍）大型双眼鏡に同架、8cm・1200mm屈折望遠鏡（96倍、これは元南高の物で40年以上前のものです）を使用しました。

観測したものは、月・木星・土星・火星・M13（ヘルクス座のメシエ13番の球状星団）・M57（こと座のリング状星雲）・M27（こぎつね座のアレイ状星雲）・アルビレオ（はくちょう座β星、3等星の金色と5等星の青色のきれいな二重星）・M80（さそり座の球状星団）でした。



観測した月のクレータ



パソコンを通して土星を見る

当日の天候は、雲量4、シーイングは2/5と悪かったので、暗いM（メシエ天体）は諦めましたが、光量のある月や惑星が出ていたので、見栄えは良かったです。

また月の拡大撮影はスマホや携帯のカメラ機能ででき、簡単なデジカメでもできますが、ちょっとしたコツがあるので、手持ちコリメート法（接眼部にスマホ等のレンズを当てて写すやり方）で皆さんじっくり構えて撮影していました。クレーターも良く写りますよ。

また反射望遠鏡にCCDカメラを付けて、パソコンのディスプレイで大気の揺らぎ（シンチレーション）でゆらゆらしている土星等を皆で同時に見られたのも良かったですね。

今後も機会があれば観測会をやりたいのですが、その際はぜひスマホやデジカメを持参して下さい。